

Let's ケア会議！

第12号

2025年 3月発行
発行：鶴川圏域地域ケア推進会議

2024年度 鶴川圏域合同地域ケア推進会議が開催されました。（2024年12月12日（木）19：00～21：00）

テーマ「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために 今、私たちができることは？」 ～地域の避難所の実状を理解し、災害に備えよう！～

今年度の鶴川圏域地域ケア推進会議は、昨年度に引き続き、災害発生時に向けた取り組みをテーマに開催しました。BCPについて考え、災害時における鶴川圏域の医療体制の現状と課題、多職種連携の必要性について話し合いました。

冒頭に、町田市地域福祉部福祉総務課から「個別避難計画」についての説明をいただきました。鶴川圏域では、今年度からモデル事業としての取り組みが開始されており、来年度は全市的に取り組む予定となっております。

町田市地域福祉部福祉総務課 小俣氏



個別避難計画とは、2011年の東日本大震災の教訓から、「ひとりでは避難をすることが困難な『避難行動要支援者』が、生命を守るための行動を、避難支援者とともに予め決めたもの」です。市内で約9500人が対象になっており、計画の作成を専門職に依頼することができます。作成の流れを広げていくために、積極的な働きかけが必要で、地域防災の担い手だけでなく、医療福祉の専門職や団体、様々な関係者と連携して取り組むことが必要です。

個別避難計画の作成を支援しました。

ご本人にとってどんな支援が必要なのかが見えたことが良かったです。ご家族自らご近所に協力を要請されたと聞き、行動のきっかけになりよかったと思っています。



居宅ふくいん
三田氏

ツクイ町田鶴川
田中氏



デイサービスで避難訓練を実施しました。

徒歩5分程の公園まで避難訓練を行いました。徒歩での移動は負担が大きく、退避しない選択肢もあると思いました。建物内または駐車場での待機がベストと感じました。

ぴーぷるケア
青木氏



金井中避難所開設訓練に参加しました。

避難所の環境は良いとは言えませんが、最低限の設備はありメリットも多くあります。避難所の機能を知ること避難の判断材料になると感じたので参加して良かったです。

金井地区の防災訓練に参加しました。スタンドパイプやマンホールの消火栓などを初めて見て、知らないことが多かったことがありました。参加後は防災倉庫や消火栓の場所を意識するようになりました。

ハートケアプラン
堀場氏



大蔵小避難所開設訓練に参加しました。

震災時医療拠点立ち上げ訓練の必要性を感じました。河川流域であるため、水害への備えとして、警報発令時の避難体制も考えていかなければいけないと感じました。地域連携の重要性を痛感しました。

イワナガ薬局
鯨岡氏



個別避難計画作成のメリットは、避難のイメージがわくことです。発災時にすぐに地域の支援は受けられません。災害時の対応については医師会の先生方も力を入れており、危機感を感じている地域だと思います。日頃から各機関との連携が重要だと考えます。



発表者による意見交換
司会：鶴川サナトリウム病院 齋藤氏

参加者の属性	参加者数（人）	割合
病院	5	5.7%
クリニック	0	0.0%
歯科医院	1	1.1%
薬局	18	20.7%
訪問看護	2	2.3%
リハ職	1	1.1%
ケアマネジャー	27	31.0%
訪問介護事業所	5	5.7%
通所介護事業所	4	4.6%
入所施設	2	2.3%
その他介護事業所	3	3.4%
その他	19	21.8%
合計	87	100.0%

今回、第二清風園会場で27名、オンラインで60名、総勢87名の方にご参加いただきました。
グループワークでは「取り組んでいることと今後できそうなこと」というテーマや「避難が難しい方について」等、各グループで自由にテーマを挙げていただいてグループディスカッションを行いました。各グループからの意見・提案は以下のとおりです。

現状

- ・ 個別避難計画作成のメリットを感じにくい。
- ・ 自事業所を確認したところ備蓄の量が不足していた。

感想

- ・ 総じて災害時の対応は難しいと感じた。
- ・ 個別避難計画を作るプロセスが自助公助を考えるきっかけになるのでは。
- ・ 圏域を超えて話し合いや協議ができるように提案できるとよい。
- ・ 安否確認に回る必要性を感じた。

課題

- ・ 河川や丘陵地があるため移動手段が課題。
- ・ 机上のBCPではなく実効性のあるものにしなければならない。
- ・ 薬が不足している状況があるため備蓄への働きかけをしたい。
- ・ 在宅避難している方にどのように医療を届けるか。

これからできること

- ・ 自分が住んでいる、または事業所がある地域の避難所について調べたり、防災訓練に参加してみる。
- ・ 日ごろから地域とつながりを持ち、顔の見える関係をつくる。
- ・ それぞれの分野で、今回の会議で感じたことを深化させ、これからの体制づくりに活かす。
- ・ 圏域だけでは解決できないことも多いため、具体性をもたせて市に報告していく。



*** 感想 ***
金井町内会長 大石氏

個別避難計画は、雲をつかむようなもの。市役所の防災課と福祉総務課が繋がっていないのではないかと感じる。防災訓練や避難所開設訓練を見てもらえたことは良かったと思う。災害を想定した場合、顔見知りになっていること、いざという時に協力し合える関係になっておくことが大切。
自治会としても、避難所が快適に過ごせるように役所にも発信していきたい。



*** 総評 ***
**町田市地域福祉部
福祉総務課 狗飼氏**

地域の防災の取り組みに地域の事業所が関わっている。発災時は、まずは身の安全を確保した上での避難となるが、ケアの必要な方だと個別な事情が重要となってくる。市役所内の横の連携も今まで以上に密にしていきたい。

会議の様子をyoutubeで限定公開しています。視聴ご希望の方は支援センターまでお問い合わせください。
次年度より、本紙「Let'sケア会議」の配布をデータにて行う予定です。詳細は追ってご案内いたします。